

JCD KANTO Designers

特集：シンガポール研修旅行を終えて

小田切 純子

会員の近況報告

鹿目 久美子 下平 万里夫

Soda委員会

新藤 力

冬のパーティー '13

「あのころ」

重鎮のデザイン回顧録 / 大熊 俊隆

賛助会員の顔

カリモク家具株式会社 / 株式会社 ユニオン

‘ 13 Nov.

シンガポール研修旅行

2013年11月27日(水)～
2013年12月1日(日)

Text by 正会員 小田切純子

シンガポール研修旅行記

11月27日(水) 22:30、羽田国際ターミナル集合からシンガポール研修旅行は始まった。参加者5名、品川正之氏、松岡國夫氏、鈴木進一郎氏、福田裕治氏、そして(紅一点)小田切純子。隊長は品川氏。

松岡氏の姿が見えない。22:30を過ぎたところでJTBカウンターへ。そしてシンガポールエアラインで座席の手続き中、松岡氏が現れる。なんとJCDのゴルフコンペに参加し優勝してこの旅行に参加。JCDの会員として一日に2つの行事に参加されるとは・・・なんとも頭が下がります。定刻より15分遅れて28日0:45出発。

28日(木)シンガポール時間7:20 チャンギ空港着。(日本との時差は1時間です。)気温は30度。JTBの車でホテルへ。ホテルはオーチャードから地下鉄で北側へ1つ目と2つ目の間にあり割合と便利。一人部屋の小田切だけチェックインOKとの事。皆で部屋に荷物を置きに行く。部屋に入ると足元が滑る。キイカードを差し込み部屋が明るくなると天井から水・水・水・・・。床に水が溜まっている。フロントに戻り部屋を替えてもらう。そこはかなり広い部屋で5人掛けのソファセットがあり、早速今日の予定を確認。今日は福田氏のおすすめポイント「カトン地区」へ。その後今回のメインポイント「マリナ・ベイ・サン」。夕方から福田氏の勤めるアルテリアのシンガポールオフィスを訪問。出発時刻は8:15。



カトン地区の建物



マリナ・ベイ・サン

サンズ・ホテル全貌



少しだけ見えるサンズ・ホテルのプール



地下鉄でカトン地区へ。シンガポールの地下鉄は全6路線で分かりやすい。カトン地区の最寄駅下車。品川氏はスマートフォンで、鈴木氏は地図で現在地を確認。ガイドブックに記載されている駅を降り、歩く事20分。やっとその町並みが見えてくる。2階建ての建物はタイルの装飾や透かし彫りの扉等優雅な佇まいで、中国の影響を色濃く残したビーズ刺繍の雑貨や食器、マレー系の料理店等がある。とにかく歩いた。

ランチは「112カトンSCのフードコートでローカルフードを楽しむ。違う道を歩いて地下鉄駅へ。雑貨に未練を残す小田切のためにシティホールに移動して目的の雑貨店に行くが工事中。残念!

歩く元気もなくTAXにてマリナ・ベイ・サンへ。専用EVで一気に56階へ。いや、凄い!! 疲れも忘れてしまう眺望である。圧巻。とてもカメラには納まりません。皆様も是非ご自分の目で・・・。

宿泊者しか入場できないプールも少し見ることが出来、しばしシンガポールの景色を楽しんだ。

そこから2駅アルテリアのオフィスのあるラッフルズ プレイスへ。駅に羽田CEOが迎えにきて下さり、駅に隣接した高層ビルの18階にあるオフィスへ案内して頂いた。

羽田CEO、藤井CCOからシンガポールの“今”を伺う。とにかく家賃と人件費が高騰しているとの事。シンガポールには建築資材があるわけではなく、近隣のマレーシアや中国、インドネシアから調達しているetc.

17:40TAXにて今夕のレストラン「ジャンボ・シーフード」へ。リバーサイドのこのエリアはクラーク・キーと呼ばれシンガポールナイトライフの中心スポットとの事。カニも魚ももちろん美味しかったが、デザートのカビオカ入りマンゴーのかき氷も素晴らしい。大満足。

クリスマスイルミネーションを楽しみながらホテルへ。
なが〜い一日でした。

シンガポール研修旅行

2013年11月27日(水)～
2013年12月1日(日)

Text by 正会員 小田切純子

29日(金)ロビー9:00集合。品川氏おすすめポイントのデンプシーヒルへTAXで向かう。デンプシーヒルは英国統治時代、英軍のキャンプ地だった場所で兵舎を利用したレストランや家具店、ギャラリーが並ぶ。大きな木々にはクリスマスの飾りが付けられ夜はさぞ綺麗だろうと想像できる。森林浴の後はTAXにてホランドビレッジへ。

駅付近の商店街を見て回り、駅のSCへ。4階建てで、1階は食料品、2階～4階はアジアンテイストの雑貨の店とマッサージ店・ネイル店(サロンではない)が入っていた。

そして外してはいけないポイント、「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」へ。昨日上から見たものの地に足を付けた見学へ地下鉄で移動。乗り換車で吹き抜けを見上げると滝のような雨、え！まさか～。

目的地のベイフロントに着いても雨と雷。移動中の30分の間に天気は急変。シンガポールの天気は午前中晴、午後から時々スコールが普通だそうです。隣接のサンズ・ホテルで待つこと20分、雨は上がりホテルの空中ブリッジを渡ってガーデンへ。巨大ツリーの展望台に上がり地上50mのところからホテルを見る。その後高いところの好きな品川氏、鈴木氏、小田切の3名は地上22mのつり橋「スカイウエイ」を歩く。下が透けて見えるのでちょっと足がすくむ。園内巡回バスにてグランドフォレストに移動、大きな滝を外から見学してギフトショップへ。それぞれお土産を手に、バスで出口へ。サンズ・ホテルの全貌は見納め。何回シャッターを押したことだろう。

時刻はそろそろ17:00回はラッフルズホテルへ。小田切のリクエストでロングバーにて“シンガポールスリリング”を飲むべく向かう。地下鉄で1駅。建築はネオ・ルネサンス様式で何とも美しい。

2階のロングバーは観光客でいっぱい。何故わかるかって？みなシンガポールスリリングを飲んでいる。そしてテーブルの上には殻つきピーナツ、殻を床に捨てるのがこの流儀。18年ぶりのシンガポールスリリング。当時はロングブーツだったのに・・・と思うも念願が叶い満足。



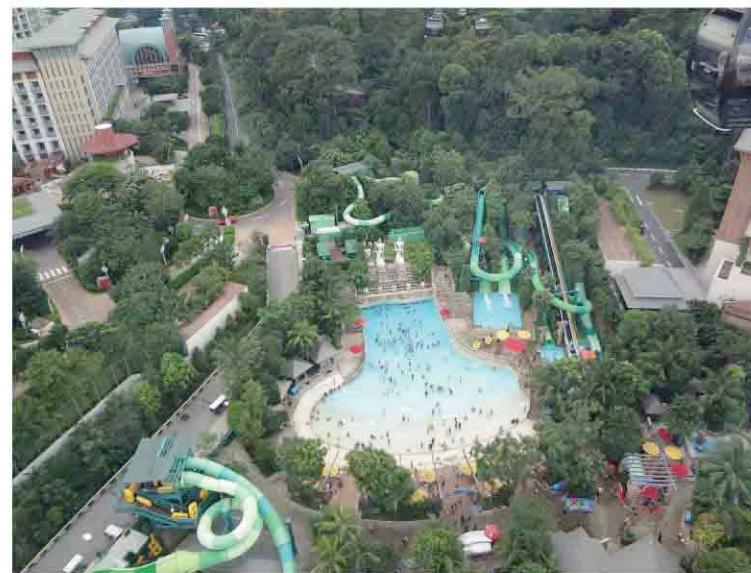
デンプシーヒル



ロングバー



砂浜



ケーブルカー



マーライオン

さっきまで晴れていた空から滝のような雨。ホテルのショップに立ち寄り地下鉄でニュートンへ。

今夜の夕食は鈴木氏リクエストの屋台飯。中に入ると呼び込み合戦がすごい。何とかお腹を満たしホテルへ。小田切の部屋に集まり今回の研修についてetc. 盛り上がり、気がつけば23:00を過ぎている。

最終日の集合時間を確認して解散。

30日(土)充実の2日間を終え今日の夜には帰国。やはり外せないポイント、「セントーサ島へ。地下鉄も使いこなしベイフロント下車。そこからセントーサ・エクスプレスで海岸まで行く。リマウ岬に向かい砂浜を歩く。リゾート地の海岸とちょっと趣きを異にし、すぐ近くに大型船が多数停泊している。

帰りはリフトとケーブルカーでハーバーフロントへ。まずリフト。とにかく高い。あまりに高くして・・・次はケーブルカー、もっと高いところを滑るように進んでいく。こちらはカプセルなのでちょっと安心。眼下にはユニバーサルスタジオと海が広がり、高層ビル群の眺めは格別でした。

地下鉄でオーチャードへ。ランチは松岡氏のリクエストで日本食。さあこれからオーチャードロードを歩こうと外に出るとものすごい雨。どうも止みそうもない。ここで二手に分かれ男性陣はマーライオンにご挨拶に。小田切はショッピングめぐり。

出発はホテル18:40、JTBのバスが迎えに来て空港へ。クリスマス装飾のチャンギ空港で思い思いに時間を過ごし、22:00定刻に出発。

12月1日(日)日本時間5:30羽田空港到着。気温は6度でした。

2泊5日、3日間の充実した視察旅行でした。



小田切純子
MDPアドバイザー
商品装飾展示技能士1級
商業施設士
JCD正会員
日本VMD協会 監事

「大自然の中に浮かぶ現代の茶室空間を目指して」 マリオ・デル・マーレ/下平万里夫

美しい自然の中に一枚の緋毛氈を敷き
人と人が向き合う
お茶の香りがすっと立ち、
静まり返った庭園にお茶を立てる音だけ響く
一瞬、木々がざわめいたと思うと
一陣の風が水面を渡り、桜が舞う
そのとき人は太古の昔から変わらぬ
自然と一体となり
八百万の神々の声を聞く

野点や茶室に象徴されるように、古来から日本人は移ろい行く自然をも食の空間として楽しんできた。日々刻々と移ろい行く大自然は美しく決して飽きることがない。自然を傷つけない、大自然の中にそっと入りただ静かに大自然の息吹を感じる。

そして、何も残さずそっと立ち去る。

エネルギーや資源問題を抱える現代にもう一度日本古来の自然観を蘇らせ人と地球が共生する道を探したい。

そんな日本人らしい自然感を現代に蘇らせようと、高い理想を掲げて地球を傷つけない建築を作ろうと思い立ったのが3年前。

振り返れば、スライド丸鋸盤にはじまり、フライス盤、旋盤、16tプレス、パイプベンダー、等、ひとつずつ工具が増えて行き、今や我が事務所は町工場の様相を呈している。そして傍らにはボツになった試作パーツが所狭しと積まれている。材料費だけで外車を買えるほどつぎ込み、この3年、本業が終わった後、夜や休日の持てる時間をすべて使って取り組んできた。文字通り寝食を忘れて朝が来たことも何度もあった。体力と気力がもう限界、そして資金も限界。どうしてこんなに頑張るのか。誰のためでもない、金のためでもないただただ楽しいからだ。



クライアントの顔色を伺うこともなく、どうすれば雑誌に載るか、建築賞が取れるかなどと姑息なことも考えず、ただ、作りたいものに没頭する喜びがそこにはあった。

子供のころ夢中で模型飛行機を作ったあの感じといえばわかるだろうか。

最初はどうかと思ったら、傾斜地や凸凹の地盤にも簡単に設置できて、軽くて持ち運び出来る建築が作れるか、まったく見当もつかなかった。車のサスペンションやヨットの部品などを調べて参考にして試作したりしてみたが、どうもうまくいかない。そんな、去年の春、とうとう床を支えるトラスを三脚からロープで吊るアイデアにたどり着いた。

2ヶ月間の試行錯誤の末、一人がやっと乗れる大きさのフレームを完成させ、海岸で設置テストを行った。砂浜のスロープに設置した床に乗るときの恐怖、そして無事荷重に耐

えてハンモック構造が設計道理に機能したときの喜びは忘れられない。

それから半年を経て、かなり実用的なレベルまで完成度が上がってきたが、商品化まではさまざまな耐久テストなどまだまだ長い道のりがある。

プロジェクトを始めるときにこんなに時間がかかると知っていたらよらなかったが、ここまで来た以上、後へは引けないから、体力と資金が続く限り、一步一步、完成に向かって歩いていこうと思う。

うまくすれば今年の夏にはどこかのリゾートでZEROPODを見かけるかもしれません。そうしたら近くでじっくり一つ一つのパーツやディテールを見てください。

デザイナーなら判る創造の喜びがあふれていますから。

マリオ・デル・マーレ
/下平万里夫

逗子市逗子7_1_51
<http://www.mariodelmare.com>



「バリアフリーは誰のため？」 鹿目久美子

母が8年前に悪性リンパ腫になりました。78歳の時です。絵の展示会を控えていた母はもちろん、私達もまさか！誰の事？全く信じられませんでした。

抗がん剤治療が始まり母はみるみるうちに病人になっていきました。髪の毛は抜け、爪は剥がれ、脚の筋肉が衰えた為に、歩く事もままなりません。我が家には急に介護用品が増えていきました。

お風呂場で倒れたりもしましたから、浴槽に手摺をつけましたし(写真1)、お風呂のイスは高くないと座れないので高いイスを購入しました(有るんですね)。

だけれどもいわゆる介護用品には良いデザインが無い。無くては困る物なのに買うと「介護用品です！」って感じの物ばかりで、ますます気持ちが落ち込んでしまうようでした。(私は重い病人なのね・・・)お風呂で倒れたりすると困るからと言うので、リモコンを替えたんですけど、(写真2)父も母も眼鏡掛けなきゃ小さい字は見えない。(私もそろそろ)ましてや湯気で曇ってる風呂場では文字なんか意味ないです。私が台所で料理していると「風呂場で呼んでます！風呂場で呼んでます！」ってコールがあって、驚いて風呂場に行くと扉を開けると、父が「ギャーッ」って。私の方ですよ、ギャーは。それから何度も有ります。オオカミ少年みたいで、実際に事が起こった時はどうするのでしょうか？ですからその度に一応確かめには行く様になっています。扉は開けませんけれど・・・

ほとんどの介護用品は「安全であり安心であり機能を満たしている」こと重視です。母はおしゃれですから、どんなにフラフラでも病院の車イスには絶対乗ろうとしませんでした。杖も良いのがなく。傘の先きに付けるクロゴムをネットで探して付けたりしていました。

その頃は無かったのでもとても残念だったので、パッケージデザイナーの高橋敏さんのデザインされた杖はともおしゃれです。これならファッションとして、不自由のない人でも持てみたい。仕込み杖とか？、それこそ傘にしてほしい。(写真34)

病気が良くなる為にはおしゃれ心が大切です。明るく、楽しい気持ちでいられる事。暗い気持ちでいると病気がどんどん悪くなってしまいます。母はおかげさまで治りました。「覚悟してください」と言われましたが、絵を描き続けおしゃれをして、(今迄着なかったピンクの服とか毎日違う色の服を着ます)すっかり治りました。

でも病を超えてみるといわゆる老人になっていました。85歳を過ぎると良く言われていますが、少しの段差でもつまづきます。母がいつもつまづくのは電車のホームの黄色の視覚障害者誘導用ブロックです。(写真5)あの小さな高さにつまづき、よろけます。

【バリアフリーはユニバーサルデザインではない?!】

黄色のデコボコブロックはウィキペディアによると、

安全交通試験研究センターの初代理事長である三宅精一が友人の失明をきっかけに1965年に発案・発明し1967年3月18日、岡山県立岡山盲学校に近い国道2号(現:国道250号)原尾島交差点周辺(現:岡山県岡山市中区)に世界で初めて敷設された。その後、歩道・鉄道駅・公共施設だけでなく通常の商店の出入り口付近、横断歩道の手前だけでなく車道部分にも設置が進んでいる。諸外国の公共施設などでも敷設されているが日本ほど多くはない。色は多くは黄色。景観への配慮から以前は灰色なども多かったが、弱視者がブロックの位置を見つけやすいようにするため、黄色への敷き替えが進んでいる。

ということです。弱視者がブロックを見つけやすい様に黄色だそうです。黄色にもいろんな黄色が有るし、そもそも弱視者の人が最も解りやすい色は黄色だけなのでしょうか？弱



鹿目デザイン事務所
/鹿目久美子

視者の為だけの環境整備はおかしい。すべての人に配慮するべきだと私は思います。この写真は表参道です。こんな狭い場所では健常者でもよろけてしまいます。ましてや酒に酔っていたら絶対危険です。電車が入って来て視覚障害者、聾啞の方達が歩いているのを想像するのも恐ろしいし、しかも美しくないですよ。

何もタイルでなくとも良いと思いますし、タイルでもグラフィック的におしゃれな並べ方とかないのでしょうか？デコボコしていないで視覚障害者が判別出来る方法は有ると思います。今は携帯電話でも頬に押し当てて理解出来る物が有るわけですから。街の道路でも「並べりゃいいんでしょ」みたいな、やけくそな感じでまったくお役所仕事。いいかげんだなあ。

石原伸晃の環境省の管轄なのでしょか？真の意味でのユニバーサルデザイン。老若男女、視覚障害者も聾啞の人もすべての人が危険じゃなく、楽しく元気になるまちづくりでもっともっとデザイナーが関与して行かなくてはならないと思います。

昔、赤瀬川原平や藤原照信らが「路上観察学会」と称して路上観察をしていましたが、デザイナーが関与すべき「許されざる環境問題委員会」をJCDで路上探偵団を立ち上げ、「問題提起」「問題解決方法」を石原伸晃に提案するって言うのはどうかなあ？

いつかはきっと行く道なのだから、今のうちに素敵な楽しい「介護用品」「環境整備」を考えましょうよ！



写真1



写真2



写真3



写真4

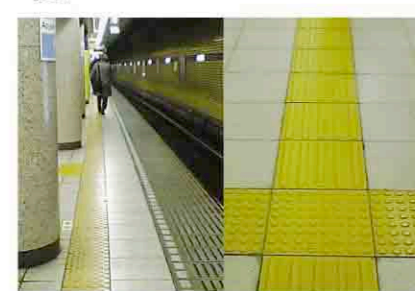


写真5

Soda委員長 新藤 力



平成25年度後期、関東地区では相模原市立鹿島台小学校・中野区立平和の森小学校・杉並区立浜田山小学校で出前授業形式のワークショップを実施した。

時折、ジェット戦闘機や大型の輸送機などが近くを通過する鹿島台小学校。

特別支援学級の3人が参加してくれたことが大変印象的であった。子どもたちは彼らと当たり前前に接し、当たり前前にサポートしている。4時間の長時間の作業、座っているのも辛そうで時々先生が「疲れたら教室に帰ろうか?」と声掛けをされていたが、プレゼンテーションの最後までやり遂げた!彼らの引く線にためらいは無い。私たちプロは何かしらのよりどころや平衡状態を画策するのが、それが無いのだ。線の力に完敗した。のびやかな16作品が完成したが、なかでもお化け屋敷仕立ての「だがしや」は秀逸であった。

平和の森小学校は昨年に続いて2回目のワークショップ開催となった。図工の先生が大変熱心で、「あったらいいな、こんな店」を考えるとところから始めて、商品・家具の制作などの準備に6時間をあてる。そのため、どれも4年生とは思えない力作となった。この学校の子どもたちは元気で積極的、自由な発想が特徴。「夢」が入ったカプセルのUFOキャッチャー・何でも正解できる鉛筆・魔法グッズ・賢者の石・宇宙の星...何でも販売している。とりわけ私たち



2014年2月13日(木)14日(金) 杉並区立浜田山小学校朝から雪が降り続いていました



完成作品 居酒屋 朝までらくよい リアルな店づくりにこだわりました



2013年9月10日(火) 相模原市立鹿島台小学校 最初の話し合い



完成作品 ポーリング場

を驚かせたのは、時間や気持ちを販売する店「タイム・メモリーズ」。店内に大きな「心のツボ」があり、その中にいろいろな「心(うれしい心・悲しい心・楽しい心...)」が入っている。たとえば「悲しい心」のお客さんがここで「楽しい心」と交換(買うのではない)するのだ。となりには大きな時計があり、時間の無い人に「時間」を売っている。なんとも哲学的な店だ。「売るのは「物」だけじゃない。いちばん大切なものは目に見えないものだよ。」と、小学校4年生の子どもたちに教えられてしまった。

杉並区随一のマンモス校、クラスの1/3が中学受験をする受験校でもある浜田山小学校でのワークショップは3回目。定期開催校のひとつである。6年生ともなると生活体験が豊富で、現実的・実現的な作品が多くなる。毎年居酒屋系の店が必ず登場するが、メニュー板のチュウハイの値段にいたるまで現実的ある。それに加え今年「アルバイト募集/昼間時給800円、夜



小田切講師のレクチャー



完成作品 駄菓子屋 だがっしー



2014年1月21日(火) 中野区立平和の森小学校 最初の話し合い



心のツボ

完成作品 タイム・メモリー

間時給850円」の貼紙が入口には「一日一酒」の旗が立っている。私のスローガンである。居酒屋「朝まで「らくよい(楽酔)」」、今年の夏には浜田山商店街に実現しているかもしれない。

出前授業形式のワークショップは全国で20数回実施してきた。同じプログラム=脚本だがロケーション・配役で全く違う作品に仕上がりと、子どもたちの創造力の可能性を実感している。浜田山小学校2日目は大雪になったが、反省会はこのからのSoda活動について白熱した議論が3次会まで続いた。皆さん無事に帰宅できたのだろうか?

【講師】Soda委員/奥平与人・星明臣・品川正之・鹿目久美子・新藤力・小田切純子・木村倫香・雲野一鮮・菊地一彦・大滝道晴・往蔵稲史仁(ワンピースのZ)・小野亮二(マッチ)・永井資久・芝田良治・佐藤弘美(美人先生)・福田裕治・石橋美幸・中村雅子・小田秀樹

賛助委員/菅井雅美・堺めぐみ(株式会社サカイ)・本間克典(株式会社本間工芸)・原康喜(アルプス株式会社)

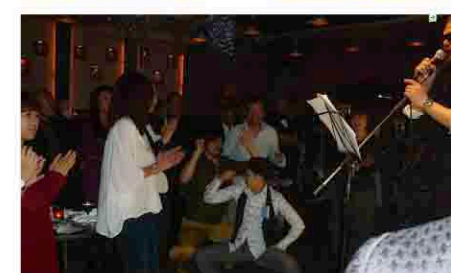
ご協力頂いた方/沢瀬学・野元あゆみ(KEI-KO+MANABU)・板橋智美(株式会社メドロージャパン)

特別参加/松村緑・田口祥子・梅沢幸代・柳瀬勝彦(ラモス)

撮影協力/石川絵麻・杵嶋宏樹

【ご協力頂いた企業】株式会社サカイ・株式会社サンゲツ・ニッタイ工業株式会社・株式会社ワーロン・株式会社タジマ・立川ブラインド工業株式会社・東リ株式会社・株式会社中川ケミカル・四国化成株式会社・株式会社ベルファニチャー・名古屋モザイク工業株式会社・アルプス株式会社

敬称略 順不同 *印/子どもたちのつけた愛称



JCD Winter Festival '13 冬のパーティー @Shibuya



冬のパーティー2013開催!

去る12月2日(月)に関東支部恒例の「冬のパーティー」が渋谷シゲックスビレッジ1階「東京メインダイニング」にて2010夏以来第二回目の開催となりました。なぜならば今回は「Year-end party!飲んで忘れて明日へGO!!」と題し、まさかあ?!、やってしまったんです。。さらにパワーアップして。

BANDMASTER・BASE:太細 通

VOCAL:橋本 夕紀夫

GUITER:小坂 竜

DRUM:新藤 力

KEYBOARD:折原 美紀

付き人:笈川 誠

とくればもうおわかりのTHE JCD BAND!そしてそして今回の目玉がゲストバンド!来てしまったのです。

その名は、

「NIKKEN SPACE DESIGN BAND片山工務店」とにかく「すんごいでした」。

と、ま〜写真をご覧ください。ということでカメラマンもなんと!(株)サカイの社長さんです!ありがとうございました。

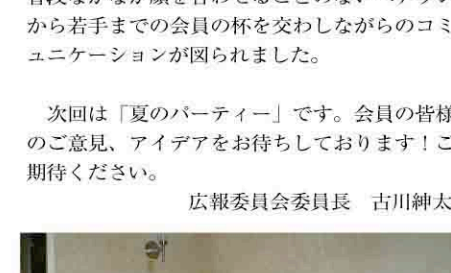
一次会もなんと3時間!、二次会ともエンターテイメントビルである同ビルで開催。約100名の参加者が集まり、超盛大な忘年パーティーとなりました。

二次会は同ビル6階のカラオケルームに場所を移し、大カラオケ大会の交流会となりました。

普段なかなか顔を合わせる事のないベテランから若手までの会員の杯を交わしながらのコミュニケーションが図られました。

次回は「夏のパーティー」です。会員の皆様のご意見、アイデアをお待ちしております!ご期待ください。

広報委員会委員長 古川神大



「あのころ...」

重鎮のデザイン回顧録～第二回

「アニベルセル表参道」大熊俊隆

1995年、5月「アオキインターナショナル」の吉田取締役からの電話があり、新プロジェクトの相談である。北青山三丁目は、閑静な住宅街であり、また、1926年から東京都の重要な風道地区に指定されており、明治神宮、内、外苑道、表参道はそれぞれ美しい豊かな自然環境を維持し、四季折々の“櫻（けやき）”並木を中心とする環境は大変に美しい。その表参道に面したプロジェクトの立地は、周辺住民のライフスタイルを十分に生かし、小街路での街の回遊性をも理解しながら計画を進めた事も、後に計画全体の重要な部分となっていた。

この地域での中心的存在になっていた、“ハナエ・モリビル”／“カフェはなみずき”、“レストラン平松”の“Cafe depre”等は表参道を常に明るく、ファッションナブル、そして新しいコミュニケーションを提供する、“アート、音楽、文化”の豊かさと生活の楽しさを創造するパリのシャンゼリゼ通りの様な豊かさを持つ“街”であった。

プロジェクトは、“アオキインターナショナル”というMENS Fashion MAKERの新規プロジェクトであり、社内から“祝祭”を入れたコンセプトづくりが提案されており、その後計画は大きく展開されてゆく。

そして、その売場空間は、当初予測した、賃貸ビルの1フロアの展開では様々な方向に進み、“新しい建築空間と環境づくり”が求められた。

1996年、“祝祭のマーケット”そして“プライダル”という新業態の提案が社内から出され、予定していた賃貸ビルの1フロア展開程度で“ウエディングドレス”のみの事業展開の予定であった。

出店計画は、計画ビル跡地（株）パリス東京支店が耐震性に問題があり、改装では無理があり、アオキ側総合プロデューサー吉田文男氏から提案で、ファッションビル専門とするオクト環境計画 大熊俊隆、ファッション系巨大マーケティングの渡辺寿彦を含めたコンペティションが実施された。結局、従来の

建築計画設計の鹿島デザイン 奥平与人、オクト環境計画 大熊俊隆、インテリア・クリエイティブサポート 増田倫夫が建築デザインチームを組み、渡辺寿彦＋社内外プランナーでマーケティングプランニングを計画実施する組織が決定された。

建築設計、インテリアデザインチームは、全員JCD会員であった。丸田 章二 JCD AOKI ARTDIRECTOR

大熊 俊隆 JCD 建築インテリアチームARTDIRECTOR 奥平 与人 JCD 建築計画設計代表 増田 倫夫 JCD インテリアデザイナー

コンペ終了後、全体の骨格を計画し、毎週プレゼンテーションが展開され、細部の計画方針と方向性を確認する為に海外視察が計画された。アオキインターナショナル社長 青木廣憲氏 団長の元、約40名のプランナー、デザイナー、建築家、他文化人等が組織され、社内プロジェクト担当チームと合同の視察団が組まれた。（毎年2回程度）

我々のデザインプランニングチームは、シーアイシーの丸田章二氏を団長にチームが生まれ、視察、研修はスタートした。

個々の研修、創造、そしてプレゼンツールの制作は、当日中に個々終了させ、翌朝にプレゼンテーションというハードな日程で毎日経過し、「アニベルセル表参道でのプロジェクト」は、オープン当日まで提案の連続でした。オープン2ヶ月前まで、そのハードスケジュールでのクリエイションとプレゼンテーションは続いた。

1998年11月「アニベルセル表参道」表参道交差点近くにオープン

パリ、シャンゼリゼ通りのメゾンイメージ、建築設計、インテリア全般に“公共性”を重視した平面展開を組む、商業施設としてのコミュニティー、コミュニケーションの場づくりを計画している。“ANNIVERSAIRE CAFE”は十分に外環境とのコミュニケーションを計画し、“記念日”を扱う人々とのコミュニティー関係を重視している。建築物の一部パサージュは、表参道と地元環境との通路であり、商業施設と



しての“場”として重要である。全ての売場、サービス施設、共にバンケットルームとしての機能が優先しており、各々の利用方法がとれる。またプライダルの“場”としての日本の代表的な場と演出空間を提供できる。

新しい時代に向けて

2000年代に入り、“銀座・丸の内”、“青山・表参道”地区は、欧米ファッション、ラグジュアリーブランドの多くの出店が続いた。

- 1998年 アニベルセル表参道、グッチ青山
- 2001年6月 エルメス・ワールド／GINZA レゾンドピアノ
- 2003年 ルイヴィトン表参道／青木淳 ルイヴィトン六本木
- TOD'S表参道／伊東豊雄建築設計事務所
- 2003年 ディオール表参道／妹島和代＋西沢立衛
- 2003年 ONE表参道／隈研吾建築都市設計事務所
- 2003年5月 プラダ青山／ヘルツォーク&ドムロン
- 2006年 表参道ヒルズ／安藤忠雄

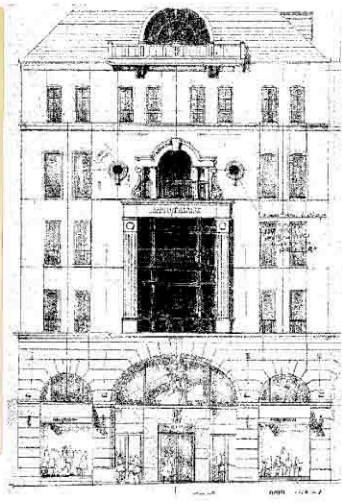
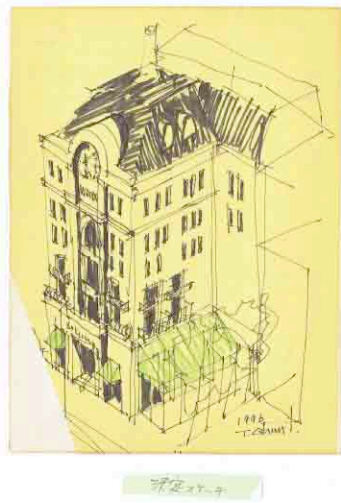
現在、表参道、青山地区は日本の代表的な自然環境と生活空間として、商業施設のバランスのとれた街として世界的に認められている。

2020に向けたウォーターフロント、豊洲、台場など注目されている。新しい時代の再開発、都市計画に期待する。



大熊 俊隆
サンシャインシティ、船橋5らぼーと、ラフォーレ原宿、新千歳空港ターミナル、池袋駅西口再開発事業、東武百貨店、新宿伊勢丹本店、ハウステンボス、銀座かねまつ本店ビル、ANNIVERSAIRE OMOTESANDO等 大型商業施設プロジェクトに参加。

現在オクト環境計画研究所所長 JCD会員 日本商業施設士会会長



関東支部賛助会員の顔

(株) ユニオン

高い美意識とクラフトマンシップで新たな建築文化を創るユニオン

あらゆる建築のシーンで活かされ、都市環境に息づく金属製品を生み出しているユニオン。ドアハンドル、レバーハンドル、消火器収納などの製品をはじめ、戸当りや手摺、フロア備品、壁面装飾、車止めなどの景観製品、その他収納関連の製品など、豊富なアイテムで建築空間を彩ります。1946年に創業開始、常に新しい建築・デザインの情報を吸収しながら感性を磨きつつ様々な製品を開発し、今ではドアハンドルだけでも2000種以上に広がっています。

昨年9月に開設された東京ショールームでは、感動頂ける空間を目指し、充実したアイテム展示だけでなく、様々なシーンの扉の映像と製品と組み合わせ、イメージできるビジュアルシステムや、あらゆる素材を体感できるマテリアル展示、また情報交流の空間として講演会/展示会の開催など、様々なイベントの場としても広くご利用頂けます。



ユニオン東京ショールーム
〒135-0021 東京都江東区白河2-9-5
(株)ユニオン東京支店 1F
TEL 03-6689-2980 / FAX 03-6689-2986
営業時間 9:00～18:00 (定休日：土/日/祝日)
駐車場はございません、公共交通機関をご利用ください。 担当/沼田健一

カリモク家具(株)

「木」を知り、「人」にやさしい家具づくり

風雨に耐えながら生長し、年輪を重ねていく木と同じように、カリモクは様々な試練を乗り越え、試行を繰り返して、理想の家具づくりへの道を歩んできました。「100歳の木を使うなら、その年輪にふさわしい家具を作りたい」その想いを支えてきたのは、1940年の創業以来、変わらず受け継がれてきた「品質至上」の精神です。住まいのすべてに快適を。木製家具のトータルブランド。

カリモクは、リビング・ダイニング・子供部屋・書斎・ベッドルームまで、住まいをトータルにコーディネートできる家具をラインナップ。イメージ通りの家具をお選びいただけるよう塗装色や張地・サイズなどのオーダーメニューを幅広く取り揃えています。

総合家具メーカーとして、理想の住まいに寄り添う家具をトータルに提案しています。また、オフィスから商業施設、病院、官公庁など、業務用家具の分野においても多くの納品実績を誇



上 カリモク本社 右上下ともショールーム



ります。お客様のご要望を基に、専任スタッフがプランニングから制作、納品、メンテナンスまで総合的にサポートいたします。

カリモク家具株式会社
埼玉県川口市領家5-10-17
TEL 048-224-1071 / FAX 048-224-2805
http://www.karimoku.co.jp 担当/新井秀徳



● 関東支部 新入正会員 (敬称略)



奥 昌子

有限会社プラスタック 代表取締役社長
106-0031 東京都港区西麻布1-5-12 atrio 1-b
tel:03-3423-0238 fax:03-3423-0239 e-mail:info@plastac.co.jp
主な業績
I STAR JEWELRY 銀座店(ジュエリーショップ)、2.D.A.Consortium(オフィス)、3.irep(オフィス)、4.NARUKAMI(レストラン)

● 関東支部 新入賛助会員 (入会順敬称略)

株式会社オーツー QUON TOKYO	東京都港区港南3-4-27 WAREHOUSE2F TEL:03-6433-1075 FAX:03-6433-1076 http://www.otu.co.jp
株式会社SIXINCH. ジャパン	東京都渋谷区松濤1-26-18-1F TEL:03-6416-8800 FAX:03-6416-8801 http://www.sixinch.jp/



JCD関東支部賛助会員

みはし株式会社	埼玉県和光市白子3-26-43 tel:048-464-3112 fax:048-466-1034 http://www.mihasi.co.jp
西澤工業株式会社	群馬県高崎市上並榎町445 tel:027-362-6234 fax:027-362-6462 http://www.nishizawakk.co.jp
株式会社プラン・ドゥ・モトハシ	東京都練馬区下石神井3-9-10 ガーデンハウス石神井・ベル1-101 tel:03-5923-6505 fax:03-3904-1920 http://www.plando-group.co.jp
株式会社本間工芸	東京都港区新橋6-9-13 新洋ビル3F tel:03-6435-6571 fax:03-6435-6572 http://www.11.ocn.ne.jp/~honma/k/
株式会社大川工務店	東京都目黒区緑ヶ丘2-15-13 国領ビル206 tel:03-3705-5605 fax:03-5701-0383 http://www.okkawakoumuten.jp
桐野建設株式会社	埼玉県三郷市栄4-258-1 tel:048-954-6606 fax:048-954-6628 http://www.kirino-kensetsu.com
カリモク家具株式会社	埼玉県川口市領家5-10-17 tel:048-224-1071 fax:048-224-2805 http://www.karimoku.co.jp
アルプス株式会社	東京都新宿区早稲田南町33 tel:03-3207-0006 fax:03-5272-0051 http://www.alps-co.com
株式会社銀座建創	東京都中野区東中野3丁目14-26 tel:03-3934-5556 fax:03-3934-5552 http://www.ginza-kensoh.jp/
株式会社ESG JAPAN	東京都千代田区東神田2-7-1 広部ミヤケビル6F tel:03-5809-2815 fax:03-5809-2816 http://www.esgjapan.com
株式会社モーリコーポレーション	東京都渋谷区鉢山町15-1 tel:03-5458-5500 fax:03-5458-8880 http://www.mohly.co.jp
YKK AP株式会社	東京都墨田区亀沢3-22-1 YKK R&Dセンター7F tel:03-5610-8435 fax:03-5610-8436 http://www.ykkap.co.jp
株式会社ユニオン	東京都江東区白河2-9-5 tel:03-3630-2811 fax:03-3630-2816 http://www.artunion.co.jp
株式会社ドラフト	東京都新宿区四谷4-28-4 YKBエンサインビル12F tel:03-5366-6100 fax:03-5366-6101 http://www.draft.co.jp/
株式会社和興	東京都港区東新橋2-5-5 日建岩田ビル5F tel:03-5408-8900 fax:03-5408-8901 http://www.k-wakoh.co.jp/
有限会社原田左官工業所	東京都文京区千駄木4-21-1 tel:03-3821-4969 fax:03-3824-3533 http://www.haradasakan.co.jp/
東工シャッター株式会社 東京支店	東京都台東区元浅草3-13-12 Uビル8F tel:03-3842-1778 fax:03-3842-1779 http://www.toko-ss.co.jp/
SorannaAvenue株式会社	東京都大田区南馬込5-9-15 馬込ツインコートS1 tel:090-8304-1458 http://www.sorannaavenue.co.jp
株式会社 博報堂	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー tel:03-6441-8766 tel:03-6441-6519 http://www.hakuhodo.co.jp

2014年3月末現在

関東支部26年度組織図

各々の委員会は委員を募っています。



JCD KANTO Designers

2014 0327

JCD kanto publishing

発行人: 小田秀樹/関東支部長
 編集長: 古川紳太/広報委員会
 副編集長: 大滝道晴/広報委員会

表紙写真協力
 支部賛助会員:
 カリモク家具株式会社/担当 新井様